

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したGHを目指し、理念を意識してケアに取り組んでいる。職員間でも意見交換して次の実践につなげている。	事業所独自の理念があり、職員が常に立ち戻る基本的な指針となっている。職員は日々のサービス提供場面においてふり返り実践につなげている。また、玄関や居間に理念を掲げ、来訪者等に事業所の目指す方向を周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さんのはからいで、サロン、演芸会、常会などに参加している。中学生の福祉学習、高校生のボランティアを通じ交流を深めている。	飼犬つながりでご近所の飼い主さんと犬の散歩の途中で行き交い親しくなり、漬物持参でお茶に立ち寄りや、季節の野菜などのおすそ分けをいただくこともある。地区役員の方にも気軽に来訪していただくなど、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から直接相談されることもあり、病気の理解、支援についてお話させていただいている。ボランティアさんに来て頂き、利用者さんとの交流を通じ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の取り組みの状況など具体的にお話し、理解を求めている。	運営推進会議は入居者家族、地域代表、民生・児童委員、地域包括支援センター職員、消防署員などの参加のもと、平日の日中に行なわれている。ホームの現状報告、季節の行事などの説明やケアの実情について話し合わせ、2ヶ月から3ヶ月ごとに行われている。家族会が同日に行われることもあり、意見や要望等は事業所運営に活かされている。	運営推進会議も年々開催回数や内容面で充実してきている。理念にある「地域社会とのつながり・住み慣れた地域で暮らし続けるための架け橋」を更に具現化するためにも実状に合わせての回数増を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的開催される担当者会議において現状報告を行い、要望等もお聞きし協力関係を築くようにしている。	町内の約30にのぼるボランティア団体で構成している「福祉を考える会」にホーム長や計画作成担当者が参加している。介護認定の更新に調査員が来訪したり、定期的に行われる事業者会議にも出席している。町担当者がホームに来た時に色々な情報を伺うなど、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学んだことを職場会議で徹底している。1人1人の状況把握を行い鍵をかけないケアを心がけている。	職員は研修や勉強会を通じ身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケアを実践している。玄関の施錠はされていない。場面場面で本人の意にそって対応し、入居者の行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議、日々の引き継ぎの中で、互いのケアについての見直し、虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加した職員が職場会議の場で報告し利用者の支援に結びつけている。又、弁護士さんとも連携した支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は十分に話し合い、気軽に相談して頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折には職員から声をかけて気軽に意見を言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。契約の際、相談窓口についても説明させて頂いている。	基本的には家族に月の利用料を届けていただき、意向や要望等もその機会に言っていただけるよう働きかけている。また、毎月の家族宛のお便りには本人の写真やコメントをつけて配布しており、入居者の暮らしが垣間見え非常に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や引き継ぎの際の意見や提案を検討し、日々の業務運営に反映させている。	毎月職員会議が月始めに開かれ、全体会議の後、1・2階に別れケアプランの見直しや介護の現状についての話し合いが持たれている。職員からの意見やアイデアは運営に活かされている。日々の朝礼時や会議において管理者と職員の意思疎通が図られており、厚い信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を実施し心身の健康を保ったり、日々の業務での悩みなどの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人内外の研修を受けることが出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の集まる事業所会議に参加させて頂き交流を通じてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望があればショートで利用して頂き、本人や家族の要望や思いを受け止め、信頼関係を築く一歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活状況の把握、今現在困っていることについて、じっくり話を伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネとよく相談しながら対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるということを常に心におき、苦労話をお聞きするといった場面では、職員自身もわが身を振り返り共感する。また時には裁縫の得意な方をお願いし縫物をやっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を手紙やお便りでお伝えし、面会の折にお話している。利用者さんの日頃の思いを時には代弁してお伝えし、絆を大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に地域のサロンに参加させて頂き、今まで交流してきた方たちと交流出来る様支援している。	入居者の書道教室の仲間や家族の仕事仲間の訪問がある。本人を支えたり、本人が支えてきた人間関係を職員は把握し、お盆や年末には帰省の機会を設け支援している。地域サロン「歩み会」に定期的に参加し、顔なじみの方とのふれあいを楽しみにしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く支えあって生活出来るよう職員が調整役となって支援している。1人1人の個性や心身の状態や気分、感情の変化など配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も近況を連絡して下さる家族の方もおり相談に応じる時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、又言葉に出来ない思いも行動や表情、関わりの中で汲み取る努力をしている。	職員は入居者の気持ちを汲み取り、ミーティング等で共通認識している。思いを伝えることができる入居者であっても聞き逃しのないよう日々留意している。意思表示が難しかったり、思いを伝えることができない入居者については日々の様子やしぐさなどから、本人本位に日々検討し、支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や親せきの方との会話の中から、これまでの生活歴や暮らし方、思いなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のその日の体調や思いに配慮しながら支援に努めている。日々の中で個別性を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえて作成し、課題となることについては、職員皆で話し合い作成に生かしている。	入居者や家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。定期的な見直しのほかに、職員は入居者の日々の状態を把握し、変化が見られた時には随時、計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々での気づきや意見を連絡帳、申し送りにおいて共有し見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所利用、ショートステイなどと組み合わせながら支援に取り組んでいる。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方と連携して地域サロンへ参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の選択により当法人の医師の往診、協力病院への通院、往診など適切な医療の提供がなされている。	2週間に1回医師の往診があり、健康管理は適切に行われている。かかりつけ医への定期受診は家族が入居者の状態を把握する大切な機会でもあるため、原則的には家族同行でお願いしている。緊急の場合や家族の同伴が難しい時には職員が臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状の悪化や気づきを看護職にそのつど伝え相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々見舞い、本人の様子を見たり、病院関係者と治療の見通しや退院後の生活について意見交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応同意書を交わしている。状態の変化に合わせて、医師や家族と相談し連携し支援している。	法人としての「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に説明がされている。ホームではこの一年間にお一人の方の看取りを行なった。その際にはホームの協力医や家族と連携をとりながら対応した。他の入居者にも自然な流れとして事実を話し、職員とともに合唱しお見送りをしたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事例の検討を含め、職場会議や日々のミーティングに於いて非常時の対応を各自が意識付けするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、消防署の方をお願いしGH内の消防設備、通報について研修した。	非常時に際し通報装置、スプリンクラーの設備が整っている。近くに同じ法人が運営する、小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービスがあり、緊急時の連携体制ができています。毎年実施される地元地区の自主防災訓練に職員が参加している。	今後、様々な災害を想定し、入居者の状況に応じた避難や誘導ができるよう、年間計画を立て訓練を実施されるよう望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもうたわれている1人1人の人権の尊重は日々意識し、言葉かけや対応について徹底している。	呼びかけは、苗字に「さん」をつけて呼んでいる。職員は理念にある通り一人ひとりを尊重し、その人らしい尊厳ある姿を大切に言葉かけや対応に配慮されていた。また、職員は入居者の生活歴や性格を理解の上、本人本位のサービスを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々利用の方の思いを大切にしている。言動、表情から思いを汲み取り把握に努めている。ゆっくりと分かりやすい声かけをし、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムはあるが、その日の利用者さんの思い、気持ち、体調を考慮しながら希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の好みや意向に沿って行うようにしている。髪などの乱れはさりげなくブラシを渡したり、お手伝いし整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で買い物、食事作り、片付けなど職員と一緒にしている。誕生日には好物を献立に取り入れ楽しい雰囲気のなかで食べている。	食事の支度は入居者と職員で得意分野を受け持ち、和やかな会話を交わしながら行なわれていた。職員も入居者と一緒のテーブルで食べ、料理の味付けや好みについて意見を聞きながら、献立の見直しに役立っている。おかゆやキザミなど入居者の方に合わせた食形態で提供されている。ホームの建物の空きスペースで作ったトマトやほうれん草などが食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取状況や訴えを考慮し食事量、形態等の工夫をしている。水分量にも気をつけ、ムセのある方にはとろみをつけて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の意向に沿って食後口腔ケアの支援をしている。力に応じて職員が義歯の洗浄、手入れを行っている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを記録、確認しオムツの方でもトイレにお連れして排泄しやすいよう支援している。	自立の方、リハビリパンツの方、パットのみ使用の方と多様であるが、職員は入居者の排泄パターンを把握しており、家族の要望を尊重しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、ヨーグルトなどの乳製品をおやつに出す、又水分補給なども気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いするのではなく、タイミングを見て声を掛け、気持ちよく入浴して頂けるようにしている。	入浴は入居者の体調や希望に合わせて、また一人ひとりの気持ちや生活習慣に沿って支援している。入浴方法や回数等臨機応変に対処している。重度化に伴い、リフト対応が必要な場合には同じ法人の運営する他事業所での入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こたつ、湯たんぽなどの暖房も希望に応じて使用し、安心して休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方が変更になった時は、状態の変化を注意深く見守り看護師に報告している。又気になる事は主治医に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、裁縫、食事の準備など自然に役割分担が出来ている。年中行事の思い出などもお聞きし、餅花作りなど取り入れ楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物、地域サロンに出掛ける。又お花見や紅葉狩りなど四季折々の自然を感じられるよう外出の機会を多くもとうと努力している。	ホームの回りは閑静な住宅地であり、商店街も近いことから犬を連れての散歩や買い物に適した場所となっている。また、ホームの玄関先でお茶を飲んだり、歌を歌ったりと、外気にふれる工夫もされている。気分転換に同じ法人運営の小規模多機能居宅介護事業所の車を使い、少人数で、桜や藤、りんごの花見などに出掛けている。	

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持や使うことに関しては、各自の能力や希望に応じて、家族と相談しながら支援している。ちょっとした外出で気分転換して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて気軽に電話で話をしたり、手紙を出すことが出来ることで、心穏やかに過ごせるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、又四季折々の行事なども感じられるような飾り付けに配慮し、話題にしつつ楽しんでいる。	広いスペースのとられた居間は大きな窓ガラスをカーテンなどで締め切ることなく解放的で、明るい雰囲気を感じさせてくれる。トイレも3ヶ所、風呂場も広く、快適な生活ができるように配置されている。壁には地元中学生の訪問時に書かれた絵や入居者の俳句の短冊が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬はこたつにはいたり、又暖かい季節は玄関先のベンチに腰掛け話をしたり、歌を歌ったりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や利用者さんの思いを大切に、お孫さんから送られたプレゼント、家族で撮られた写真などを飾り、工夫している。	居室には、お孫さんから頂いたぬいぐるみや入居者の作品、写真等が飾られ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さん1人1人が日々生活しやすいように、その時々状況に合わせた環境作りを意識して支援している。		